

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：（数学）科目：（数学Ⅱ） 対象：（第2学年 A組～E組）

教科担当者：（AB組：小林由^印 小林雅^印 西野^印）（CD組：小林由^印 小林雅^印 西野^印）
（E組：小林雅^印 小林由^印）

教科・科目の 指導目標	いろいろな式，図形と方程式，三角関数，指数・対数，微分・積分について理解し，基礎から応用への知識の習得と技能の習熟を図り，事象を論理的に考察する能力を養い，数学の深さを認識できるようにする。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1. 負の数や文字を含む式の四則計算は88%と高い。 2. 整式の展開についての基礎的な計算は79%。 3. 因数分解の基礎的な計算は72%である。 4. 2次関数については4割程度の理解度に留まっている。 5. 空間図形のみならず平面図形などの図形問題は問いを正確に理解できていない生徒が多い。	1. 年間指導計画の工夫 基礎・基本を重視し、一年次に学んだ関連事項、学習目標を明確にし、授業で展開する内容を担当者間で共有する。 2. 習熟度別授業の充実 担当者間の連絡調整を密に行い、学期末考査ごとにその成績（中間+期末）に基づいて、クラス編成替えを行う。 3. 問題集ノートの定期的な提出 年度初めに学習方法の説明と併せて年間計画を提示し、担当者間による確認・添削指導を行う。	教科会において、下記の指導方針を確認 1. 夏休み課題の実施 一学期の学習内容を、基礎から発展までの内容で解答も付属させ自学自習の習慣を養う。二学期当初に課題テストを行い、達成感を持たせる。 2. 放課後質問教室の実施 個別の質問対応、定期考査不振者への指導を数学科で協力して行う。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			